

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
 www.0255447777.com/i
 ホームページ
 www.kodomo-iin.com

いよいよ冬に。大雪になるかもといつ、ありがたくない予報もありま
 す。どうなるでしょうか。

新型コロナウイルスのこともあり、大変な冬になりそう。覚悟が必要かも。

* * *

その新型コロナウイルス
 イルス感染症は第3
 波の到来。これまで
 で最大の大きな流行
 になることでしょう。

感染症は人の動き

とともに広がります。全国でGo Toが
 もたらした影響は計り知れませんが
 ウイルスは自然発生しません。何ら
 かの経路で伝染していくものです。

政府が「さあ皆さん、大いに観光
 に出ましよう」と税金を使って奨励
 しました。その結果が今の状況です。
 普通の経済活動に戻すペースが早
 すぎました。流行地とそうではない



ところがゴチャゴチャになったのも
 問題です。

さらに、行きすぎたらブレーキを
 かけるといふコントロールができて
 いません。どうして状況にに応じて調

整できないんでしょうか。

流行地ではすでに医
 療体制が圧迫されつつ
 あります。新型コロナ
 によって一般のベッド
 も圧迫されています。

医師、看護師などのスタッフが手厚
 く必要なので、新型コロナのベッド
 数の何倍もの一般病床が使えなくな
 ります。

加えて、新型コロナに対応する医
 療従事者は疲弊しています。このま
 ま行けば、早期に燃え尽きてしまっ
 人たちが続出することでしょう。
 新型コロナの騒動が始まってそ

感染症情報

新型コロナウイルス感染症が、首都圏など都市部を中心に全国で大きな流行になってきました。「第3波」と呼ぶべき状況です。当地ではまだ散発的な発生であり、クラスター化はしていませんが、安心はできません。市中感染になっていかないよう、十分な注意が必要です。感染経路を断つために、マスク着用、周囲の人との距離を十分にとる、多数での会食を避けるなど、各人の行動にも気をつけてください。

流行地の往来など、行動歴、接触歴で新型コロナ感染症も心配される時には予め電話連絡をした上での受診をお願いします（詳しくは2面参照）。

溶連菌感染症とアデノウイルス性咽頭炎が少数ですが発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

水痘が一部の保育園や小学校で発生しています。1歳で2回のワクチン接種を受けているため、通常は重い症状にはならず、また大きな流行になることはありません。

感染性胃腸炎も若干の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。これから寒い季節になるとより流行しやすくなります。手洗いなどを励行し、食品の衛生管理にもご注意ください。

インフルエンザが発生したとの情報が寄せられています。
 風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

そろ1年。その間に何をを行い、次の流行に備えてどんな準備を行ってきたのでしょうか。とても十分だったとは言えません。新型コロナとの闘いはまだ始まったばかり。今後数年、しっかりと取り組んでいく必要があるでしょう。

ワクチンができれば消えていく、などと軽く考えてほしくな
 いです。

今月の予定

年末年始の休診

12月30日(水)～1月3日(日)

※病児保育室は29日(火)から休みます
 院長出務

上越市夜間診療所出務 16日(副院長)

上越有線放送 「健康ライフ」15日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

新型コロナウイルス

第3波への備えを

新型コロナウイルス感染症は、日本でも秋以降大きな流行になってきました。第3波なのでしょう。

これから冬場に向かいます。もともと冬場は多くの感染症が増加し、流行する季節。インフルエンザ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、感染性胃腸炎（ノロ、ロタウイルス）、溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎など、多くの感染症があります。

そんな中で、もし新型コロナウイルスが発生し、さらに流行が拡大していったらと想像すると、とても大変な状況になることでしょう。

クラスターと言われる小規模な流行は起きていません。まして市中感染を起してはいないはずですが。

発熱するなど、感冒様の症状があれば、今はまだ新型コロナウイルスを想定する必要はないはずです。

しかし、今後感染の流行が拡大し、ステージが変わってきたら、そうとは言えなくなってくるでしょう。

新型コロナウイルスが心配される症状が出ている時には、すぐには受診せず、まずは電話連絡をしてください。かかりつけの医療機関か、あるいは県が設けている「受診・相談センター」、あるいは保健所です。

当院をかかりつけにしているお子さんについては、どうぞ当院へお電話ください。その上で、受診の仕方など指示致しますので、それに従ってください。

当院をかかりつけにしている方や、夜間や休日などは医院では対応できませんので、ご了承ください。

流行地との往来を避けること、またマスク、手洗い、周囲との十分な距離をとるなど、各自がしっかりと対応されますよう、お願いいたします。

新潟県新型コロナ受診・相談センター

(毎日 24 時間対応)

電話 025-256-8275

上越保健所 (平日日中のみ)

電話 025-524-6134

新潟県福祉保健部健康対策課

電話 025-280-5200

地域によつて流行の度合いが違います。当地では、少なくとも今現在は発生がごく少数であり、

30年の歩み (7)

● 1999年12月 朝日新聞「声」でバトル?

この時、インフルエンザが大規模に流行し、世の中が騒然としていました。ワクチンはあるものの、供給量が足りず、希望者に十分に接種を行えない状態でした。当時はまだ大人も2回の接種でしたが、国は大人は1回のみで十分であり、もう1回分を子どもたちに使うように指示したくらいです。

しかし、ワクチン接種に反対する人たちがいました。それも大御所の小児科医。その急先鋒が毛利子来(もうりたねき)氏です。日頃からワクチン不要論、いや有害論を唱えていて、多くの方から注目されていました。インフルエンザについてもそうです。

そんな状況とは関係なく、ワクチンを積極的に受け、予防に努めて欲しいと、朝日新聞「声」欄に投稿しました。いったん受け付けられ、掲載の段取りが進んでいたのですが(掲載前に投稿者に連絡があり、各種確認や、文言の調整があります)、その直前にこの毛利氏の原稿が掲載されました(論壇「インフルエンザ予防接種慎重に」)。

新聞社から再度連絡があり、私の意見は毛利氏の意見を受けた形のものにしたいとのこと。主旨は変更しないけれど、文章を書き換えたいとのことでした。

当時は電話でのやりとりでしたが、受話器の向こうで記者が用

意した原稿を読み上げ、私がそれをチェックしました。ここまで来たのですから、面倒なので(笑)OKを出しました。

翌日掲載された文面は、自分のものではないな、と思いました。期せずして小児科医の大先輩を批判する文章になりました。

後日聞いた話ですが、毛利氏を信奉?する方々が作っているホームページ上で、塚田次郎って誰だ!と騒ぎになったそうです。けっこう過激な人たちもいるので、直接私に刃が向かってくることなく、良かったです。

● 2001年4月 読売新聞「気流」は絶賛

場を荒らす(?)ことばかりしているわけではありません。読売新聞に「乳幼児健診の気分が沈んだ日」という投稿がありました。小児科医や保健師などの何気ない一言が、お母さんを傷つけていることもあるというのです。

これは大変。私が直接の相手ではありませんが、健診に携わる小児科医の一人として何か発しないと。

『「あなたが頑張っているから、お子さんがこんなに大きく、立派に育っているよ」。こんなメッセージを心をこめて伝えていきたい』と。

私の投稿も掲載されたので、このお母さんに届いたかな。

そして私の投稿は、この月の「気流賞」(最も優れた投稿)をいただきました。私の方が恐縮した次第です。

☆インフルエンザワクチン予約は一時受付を休止していましたが、ワクチンが追加納入され再開しました。年内にぜひ受けてください。